

令和4年度第1回静岡市障害者施策推進協議会 会議録

- 日 時 令和4年8月25日（木） 午後2時から
- 場 所 駿河区役所 3階 大会議室
- 出席者 (会場参加)
(委員) 鈴木政史委員（会長）、青木憲一委員、安藤千晶委員、
石神志津江委員、井出容敬委員、川口尚子委員、小菅翔太委員、
寺田修委員、苦竹幸枝委員、八木弘子委員、
杉山好裕様（加子勝巳委員代理）
(リモート参加)
森山明夫委員
- (事務局) 吉永保健衛生医療統括監、池田保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長、
西島参与兼福祉総務課長、宮崎健康づくり推進課長、
望月障害福祉企画課長、青柳障害者支援推進課長、
深澤地域リハビリテーション推進センター所長、
山本保健衛生医療部長、鈴木保健衛生医療課長、
谷口こころの健康センター事務長、松田参与兼精神保健福祉課長、
片井子ども未来局次長、阿部子ども未来課長、
浅場参与兼幼保支援課長、小倉こども園課長、
萩原参与兼子ども家庭課長、松下参与兼児童相談所長、
蝦名葵福祉事務所障害者支援課長、
三浦駿河福祉事務所障害者支援課長
- 欠席者
(委員) 杉本和美委員、原田満紀委員、松浦康人委員
- 傍聴者 一般傍聴者 0人
報道機関 0社
- 議 題 (1) 静岡市障がい者共生のまちづくり計画の令和3年度実績報告について
(2) 次期静岡市障がい者共生のまちづくり計画策定に向けたアンケート調査
について

会議内容

開会

退任・新任委員紹介

【事務局】

お配りした委員名簿には反映しておりますが、各所属の人事異動等による委員の改選がございましたので、御紹介いたします。

当協議会の会長を務めていただいた静岡福祉大学 渡邊明廣委員が退任されたことに伴い、同大学より、鈴木政史委員に御就任いただきました。

また、静岡労働局静岡公共職業安定所 尾形正博委員の異動により加子勝巳委員に、静岡県立静岡北特別支援学校 鈴木和裕委員の異動により原田満紀委員に御就任いただいておりますが、本日は、両委員共に所用で出席されていないため、お名前だけの紹介とさせていただきます。

会長選任

【事務局】

前会長の渡邊明廣委員が退任されたことにより、当協議会の会長が不在となっておりますので、静岡市障害者施策推進協議会条例第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により新たに会長を選任することとなります。委員の皆様の中で、どなたか会長を御推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

【安藤委員】

障害者協会の安藤と申します。よろしく願いいたします。

私は静岡福祉大学の鈴木政史委員を推薦いたします。前会長の渡邊先生と同じ大学であること、障がい者福祉に見識があること、社会福祉分野全般において日頃から鈴木先生にお世話になっていることから、ぜひ、鈴木先生に会長をお願いしたいと思っています。

【事務局】

安藤委員、ありがとうございます。

鈴木政史委員を会長として御推薦いただきましたが、他の委員の皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。鈴木政史委員に会長へ御就任いただきたいと思いますが、鈴木委員、よろしいでしょうか。

【鈴木委員】

御推薦いただき、異議もございませんでしたので、快く引き受けさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。それでは、本日の協議会より、鈴木政史委員を会長として、議事を進めていくこととさせていただきます。

保健福祉長寿局次長挨拶

議題1 静岡市障がい者共生のまちづくり計画の令和3年度実績報告について

- 障害福祉企画課から資料1（1～9ページ）について説明。

【石神委員】

事業番号31のヘルプマーク・ヘルプカード普及啓発事業について質問します。私は自分の子どもに障がいがあるため、もし避難生活が始まったときに、ヘルプマークを避難所で配っていただけるといいと思いました。それができないと回答いただいたことがあるのですが、どうしてなのか理由を教えてくださいたいです。

【障害福祉企画課】

避難所でお配りできないというのは、どの会議で話があったのでしょうか。

【石神委員】

他の会議だったと思います。ヘルプマークを持っている方は自分の鞆に付けたりしていますが、障がいを他人に知られたくないという理由から普段は付けたくないという場合もあります。ただ、避難所生活が始まるとそういうことを言っていられず、ヘルプマークが欲しくなった場合には、避難所を運営している人に言えばもらえてもいいかと思い質問をしたところ、避難所では配れないと言われたため、事情があるのかと思ってお伺いしました。

【障害福祉企画課】

その時のことは分かりませんが、おそらく、避難所ですぐにヘルプマークを用意できるか分からないため、配ることができないという回答だったのではないかと思います。準備ができればお配りすることはできると思いますが、緊急時に避難所でヘルプマークを用意できるかという点は確約できかねます。

【鈴木会長】

障がいがある方の避難生活はどこでも課題となっているため、仕組みを作っていけるといいかもしれないと思います。例えば避難所設置個所には必ず備品・備蓄があるため、そこに加えるといったことも考えられます。あるいは、ヘルプマークの説明も必要になるかと思うので、そのあたりも考えていただきたいです。

【青木委員】

議題とは直接関係ありませんが、現在は中央福祉センターに向かう歩道に視覚障がい者のための手すりがありますが、聖母幼稚園の建て直しに伴って手すりを取ってしまうと聞きました。視覚障がい者も中央福祉センターにいらっしゃる際に大変な思いをされているため、このことについてお聞かせください。

【福祉総務課】

こういったお話を初めて聞かせていただきました。福祉総務課は、中央福祉センターの管理をしている所管課です。早急に課に持ち帰り、内容について検討のうえで回答させていただきます。

【青木委員】

社協からは詳しい説明はなく、そうするという案内だけがありました。あの狭いところに幼稚園の玄関ができれば障がいのある人達は出入りをするのに大変だと思うので、どうなっているのか確認いただきたいです。

【鈴木会長】

個別の案件については相談先が明確になるとよいかと思います。資料の説明の中では都市公園のバリアフリー化という話題もありましたが、当事者の方の意見を参考にバリアフリー化をしていただくとありがたいと思っています。

【安藤委員】

5 ページの事業番号25にある地域移行支援部会について、ワーキンググループにおいて協議をしているとのことですが、平成13年ころから精神科を始めとして取り組まれていると思います。私もこのワーキンググループに何度か出席させていただいたことがあります。今、こんなものが地域移行の支援としてうまくいっているというものがあれば教えていただくとありがたいです。

【精神保健福祉課】

地域移行に関しては、移行だけではなく、地域でなるべく安定して生活するということろで、地域定着支援を中心に進めているところです。地域移行については数値目標も定めており、国・市の目標を達成している状況です。ただ、地域定着率というところについては、もう少し伸ばしていきたいです。障がい者の方も高齢化しているので、高齢分野との連携として、ケアマネさんや地域包括の職員さんと病院のケースワーカーさん、障がい者の事業所といった支援者間の顔の見える関係づくりというところで研修を進めているところであります。その中で障がい者の方が地域で安定して生活ができるような取組を進めているところです。

【安藤委員】

具体的には何かないでしょうか。地域包括にも伺っていますが、あまり進展がないように感じています。静岡市としてこんなものを目指しているというのがあると、わくわくしながらワーキンググループに参加できるのではないかと思います。

【精神保健福祉課】

特に研修の中で取り扱うものとしては、8050の世帯や、単身世帯で身体合併症を患う方の行き先がないということがあるため、事例検討を主に進めています。その中で出てきた課題を取り上げて、静岡市で対象者の方々の行き先が見つかるような体制ができればということを考えているところです。

【障害福祉企画課】

話が戻りますが、先程のヘルプマークに関する回答について訂正させてください。ヘルプマークの配布はやはり難しいです。別事業にはなりますが、昨年度の災害配備体制事業の中で分かりやすいサインのような備蓄の整理を行いました。その中の一つとして、ヘルプマークは無理でしたが、ヘルプマークに準じたカードを各避難所に20枚ずつ配布しているため、要望をいただければお配りできると思います。

【鈴木会長】

備蓄しているカードはヘルプマークとは全く別のものということによいでしょうか。

【障害福祉企画課】

マークのようなものではなく、カード式でヘルプマークのデザインがついたものです。それを付けていただければ、ヘルプマークと同様に支援をいただきたいという意思表示ができるものとなっています。

【鈴木会長】

そうすると、避難所を運営する方にヘルプマークの周知というものが必要になってくると思うので、考慮いただきたいです。

【石神委員】

参考資料1の30ページ、自立生活援助について、令和3年度の実績は0箇所となっています。今、こういった援助はとても必要で、グループホームでは馴染めず、ある程度自立ができれば一人暮らしをしたいという方もたくさんいると思います。その時にこういった援助があると何とか一人で暮らしていけるのではないかと思います。事業所がないから使えないのか、使いたい人が把握できないからなのか、どちらか伺いたいです。また、令和5年度の目標値が3箇所となっていますが、目処があつての目標なのか単純な数値目標なのかもお伺いしたいです。

【障害者支援推進課】

令和3年度の実績は資料に記載のとおりとなっていますが、令和4年9月1日付けで1事業所を指定する予定です。令和5年度の目標値については、各区で1箇所ずつということで目標を3箇所とさせていただいています。

【鈴木会長】

制度上の制約もあり、なかなか使いにくいかもしれませんが、当事者の方の希望等を聞きながら柔軟な対応ができればと思います。

時間も過ぎてきたので、分野5から8についても、事務局から説明をお願いします。

● 障害福祉企画課から資料1（10～17ページ）について説明。

【寺田委員】

評価がCとなっている事業番号109のように、コロナ禍で開催が難しかった事業がある中でも現場で工夫をされた点は評価すべきと考えます。開催ができればいいですが、工夫があるので、C以上の評価だという印象を持ちました。障がい者が利用できる、アクセスできるといったところに繋がっていけばいいと思います。

【鈴木会長】

評価というのは我々も苦勞していて難しいところがありますが、この他に御意見はないようなので、次の議事に進んでいきたいです。

本日いただいた意見については、今後の事業実施の際の参考としていただくようお願い申し上げます。

議題2 次期静岡市障がい者共生のまちづくり計画策定に向けたアンケート調査について

- 障害福祉企画課から資料2、3、4、5-1、5-2について説明。

【石神委員】

スポーツをどのくらい行っているかという設問について、ほとんど行っていないという選択肢を選ぶ場合、本人が望んでいないのか、したいけれど何らかの理由があるのか、そういった点についても聞いてみたいと思います。

【障害福祉企画課】

理由により、取るべき対応は変わってくると思います。設問数がすでに増えているなか、この設問を深掘りする余地があるかは検討させていただきます。

【鈴木会長】

ありがとうございます。確かに、御指摘いただいたとおり、障がい者スポーツをしようと思っても環境が整っていないとか、始めるまでに苦労があるとか、そういったこともあると思うので、そこも把握できればと思います。

他に御質問はあるでしょうか。

【安藤委員】

調査の対象者が資料3に書かれています。障がいのない方3,000人というのは、どういった方を抽出するのでしょうか。

【障害福祉企画課】

特にフィルターをかけず、18歳以上の方をランダムに抽出する予定です。

【安藤委員】

ランダム抽出される中には、障がい者施設で働いている人、相談窓口をしている人なども含まれるでしょうか。

【障害福祉企画課】

そういった方も対象になり得ます。まだ説明をしていますが、資料6-1、障がいのない人用アンケートの設問を御覧いただけますでしょうか。4ページに、障がいのある人と関わりがあるかを問う設問がございます。その回答として、福祉に関する仕事に携わる中で関わりがあるという選択肢がございますので、障がい者施設で働いている人等を拾えるように

しております。

【安藤委員】

障がいのない人用の設問を見たうえで改めて質問させていただきます。

【青木委員】

自分は障がい者ですが、アンケートが今まで一度も来たことがないです。役員も10年以上やっていますが、一度も自分のところには来ていません。以前は障がい者福祉課の人が来てくれて、会員に何部か渡して回収をしてもらっていたこともあります。そういったことも考えて、各団体に協力してもらった方が回収率も上がると思います。障がい者のためにやっているのか、その辺りがはっきりしていないので、お願いしたいと思う。

【障害福祉企画課】

団体の皆様に御協力いただくというのは非常にいい取組だと思いますので、配布・回収ないし回答の補助といったところで皆様に御助力いただく方向で検討させていただきたいと思います。

【鈴木会長】

無作為に抽出をしていく必要もあるというところと、1点確認ですが、対象となる方のアからカについては同じ部数なのでしょうか。当然ながら身体障がいのある人の方が統計的には多いので身体障がいのある人を多めに抽出するのか、均等に700人ずつくらいとするのか、どちらでしょうか。

【障害福祉企画課】

鈴木会長が仰っていただいた前者のとおり、区分によって傾斜をかけることを考えています。

【鈴木会長】

そうすると、身体障がいの方が多いいということもありますので、なかなか回ってこないということもあるかもしれません。他市だと、例えば団体の方、法人の方にヒアリングをして計画に反映をさせたりということもありますので、その辺も検討していただけると、当事者の方、支援者側の声というのが反映されるので、御検討いただければと思います。

他にはいかがでしょうか。

ないようですので、私の方からいくつかよろしいでしょうか。1点目ですが、静岡市はアンケートを実施する際に、調査会社のようなアウトソーシングはされているのでしょうか。

【障害福祉企画課】

こちらのアンケートについて、委託をする予定です。

【鈴木会長】

そうすると、アンケートとしてはまだ粗い部分があるかと思いますが、これからある程度修正をしていきながら完成版ができるかと思っています。

事前に設問を見させていただいた中で疑問に思った点があるのですが、サービスを五十音順に並べ替えていただいた箇所について、自立生活援助が抜けていると思います。説明書きには入っているので、もしかしたら事業所がないから抜いていたのか、抜けてしまっていたのかというところが気になったのですがいかがでしょうか。

【障害福祉企画課】

利用したサービスを問う設問になっているため、使用者がいないことから選択肢では外しています。

【鈴木会長】

アンケートの回収率はどのくらいでしょうか。

【障害福祉企画課】

静岡市障がい者共生のまちづくり計画冊子の12ページを御覧ください。前回調査の概要を掲載しており、障がいのある人については5,000人のうち2,113人から、障がいのない人は3,000人中、1,109人から御回答いただきました。

【鈴木会長】

先程、青木委員からありました、回収率を上げていく方策や取組も必要になってきますので、御検討いただければと思います。

他に、皆様からはいかがでしょうか。

【川口委員】

発達障がい児に調査となっているのですが、手帳等はないので、どのように抽出されるのかを教えてください。

【障害福祉企画課】

具体的にどのデータベースから抽出したのかを確認できる資料が手元にありませんが、令和元年度には同じ条件での抽出を行っているため、確認させていただきます。

【川口委員】

分かりました。発達障がいの方は、療育手帳や精神保健福祉手帳を持っている方も含まれているけれども、手帳を持っていない方もいらっしゃる、もしかすると18歳以上の障がいのない人という中にも含まれている可能性はあるかと思います。障がいのない人を抽出した3,000人というのも、どうやって選んでいるのかという点は疑問に思いました。

【障害福祉企画課】

仰るとおり、住民基本台帳で全市民から3,000人を抽出した場合、障がいのある人が一定数含まれてくる可能性もございます。例えば、障がいのある人の一覧を作成しておいて、重複している方を消し込んでいくといった作業をすることで、障がいのない方3,000人を抽出できるかと考えています。

【鈴木会長】

ありがとうございます。なかなか難しいところで、難病の方も同じで、重複というのも変ですが、障がいが無いというのを判定するのはなかなか難しいところはあると思います。

先程、私が調査会社等を活用しているのかを確認させていただいたのもそういったところで、調査をするのであれば、結果に偏りが無いような形をできるだけ配慮していただければと思っておりますので、その点についてはよろしくお願ひいたします。

他に御質問、御意見等あるでしょうか。

それでは、このまま障がいのない人用アンケートについて、事務局から説明をお願いいたします。

- 障害福祉企画課から資料6-1、6-2について説明。

【安藤委員】

先程とも関連するのですが、32%しか回収ができないランダムな市民に配布するよりも、実際に障がいへの支援に携わっている方や、相談窓口をされている方を中心にアンケート調査をしていただけたらありがたいと思います。

この中で拾えないものもありまして、私は実際に相談窓口をやっていますが、強度行動障がいの相談というものがたくさんあります。とっても困っていて、でも、静岡市内では受け入れてくれる施設や病院があまりなくて、それをどうしたらいいか。そうすると、静岡市にはないから、全部浜松の天竜厚生会に送るといったようなことが共生のまちづくりに繋がるのかという、そうではないと思います。ですので、相談窓口にぜひ聞いていただいて、どんな相談があるのか、本当に全体から見ると少数かもしれませんが、すごく大事な相談というものはたくさんきていますので、そこをきちんと拾っていただかなければ、地域共生社会と掲げてはいますが、そういう風にはなっていないのではないかと思います。

ですので、飾ってある絵のように、きちんとした共生社会ができるように、少ないところも拾っていただけるよう、アンケートに少し工夫をしていただければいいなと思っております。

【障害福祉企画課】

強度行動障がいについて御指摘いただきありがとうございます。当課で行っている取組の中で、地域生活支援拠点の整備、いわゆるまいむ・まいむという取組がございます。簡単に申しますと、地域で障がいをお持ちの方が生活していくに当たって、地域におりますいろんな関係者の皆様が連携して、生活を面的に支えていくという仕組みづくりというものを行っているところです。

この中で、強度行動障がいの方について、課題意識があり、受け入れ施設が少ないことについて御指摘いただいているところです。基本的には強度行動障がいについて、まずご相談いただく場所、というか、案件が上がってくるのは、各事業者さんに御家族の方が相談するようになっています。その中で、各事業者さんが強度行動障がいの状態にある障がいの方をいかに支援していくかということが必要になってまいります。県が実施されている強度行動障がいに関する研修がある中で、さらに実践的なフォローアップ研修を市で行っていくことで、各事業所さんの後押しをしていく取組をしているところです。

それから、施設整備においても、強度行動障がいの方を受け入れてくださるような施設の整備を優先的に、施設整備補助金という形で支援するという取組も行っているところでございます。まだまだ十分かというところではありませんが、今後も問題意識は常に持ち続けながら、取り組んでまいりたいと考えております。

【安藤委員】

ありがとうございます。やはり、次の計画に載らないと計画が進んでいかないということなので、計画に載せていただけるようなアンケートを。大体、アンケートを実施するときには、こういう方向性を持って、こんな回答がくればいいのかという仕掛けをするかと思うので、そこが上がってきていただいて計画に載せて進んでいけるような。そうすれば、最終評価がCであっても、計画に載っているだけで皆さん安心すると思いますので、お願いしたいと思っております。

【鈴木会長】

ありがとうございます。ちなみに、このアンケートは障がい者計画と障がい福祉計画両方に関わってくるということでしょうか。

【障害福祉企画課】

市民意識を問うような箇所は主に障がい者計画に、サービスの利用状況のような障がい

のある人用アンケート独自の内容については、主に障がい福祉計画に反映させていくものでございます。

【鈴木会長】

そうすると、自立支援協議会にもお願いをして共有していかなければいけないと思いますので、事務局の方でよろしくお願ひいたします。

強度行動障がいについては全国的に課題となっていて、なかなか受け入れ先がないということがありますので、地域に1箇所くらい拠点の入所施設か医療機関が整備できるというかなとは思っています。なかなか、受け入れてくださいとお願いをしても進まない現状がありますので、その部分が少しでも考えていけたらいいと思っております。

他に御意見等あるでしょうか。

【石神委員】

障がいのある本人と、そのきょうだいの繋がりというのは、親よりも長いということで、私はきょうだい関係というのはすごく過酷だと思っています。できましたら、障がいのない人のなかにきょうだいも入れていただいて、きょうだいの皆さんの声も聞きたいと思ひます。

育成会の中であれば、きょうだい関係はある程度把握はできるので、回答していただけると思うのですが、きょうだいの声も吸い上げていただきたいと思ひます。

【障害福祉企画課】

対象の抽出方法として、当事者のきょうだいというものをどこまで拾うか、それが無作為抽出となりうるのかといったところがあるのですが、例えば、資料6-1の4ページにあるような、どのような関わりがあるのかという設問の回答として、親・子・兄弟と選択肢を細分化することで、きょうだいというものをクロス集計で拾っていくことはできるかと思ひます。そういった形でもよろしいでしょうか。

【鈴木会長】

私の方からよろしいでしょうか。今日はいきなり参加させていただいて、静岡市のやり方を初めて見させていただいたところですが、きょうだいの方、支援者の方にもアンケートをしてほしいという意見があるなか、それをやるとどんどん対象が増えてまいります。資料4の懇話会というのはどのような関係なのか御説明いただいてよろしいでしょうか。

【障害福祉企画課】

懇話会について御説明いたします。本格始動は来年度となっておりますが、資料4の裏面を御覧ください。静岡市障害者協会に加入されている団体、市内の障害福祉サービス事業所、

職能団体等の関係団体を中心にお声かけさせていただき、参加いただけると回答のあった51団体から組織しているものでございます。

位置付けについては、資料4の表面に記載しております。懇話会においては、計画策定に関するアンケートの他、来年度には計画の中身についても皆様の見識から幅広い御意見を集約させていただき、障害者施策推進協議会や自立支援協議会に諮るといった関係になっております。

【鈴木会長】

こういった意見を聴取する仕組みというものがありますので、これを有効に活用して、当事者団体やきょうだい会、法人等の連絡会のようなものがあればそういったところも含めて意見を上げていただいて、計画に反映していくということができると、有効に働くのかと思っています。ぜひ、事務局の方でもその部分については御検討いただければと思います。

他に皆様の方から御意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。私としては、ポジティブなイメージ、ネガティブなイメージという選択肢が気になったりもするのですが、あまり気にならないでしょうか。

こちらの内容は、自立支援協議会でも協議していただくのでしょうか。

【障害福祉企画課】

アンケートの設問については、自立支援協議会に諮る予定はございませんが、結果の共有については自立支援協議会にも報告させていただきます。

【鈴木会長】

その他よろしいでしょうか。

それでは、今いただいた意見を、アンケートや計画策定に反映していくということを十分御検討いただいたうえで実施していただければと思います。

報告1 令和3年度静岡市障害者自立支援協議会活動報告

- 障害福祉企画課から資料7について説明。

【安藤委員】

重層的支援体制整備事業はどのあたりまで進んでいるのか、静岡市での進捗を教えてくださいいただけますか。

【福祉総務課】

重層的支援体制整備事業につきましては、昨年度から移行準備事業を実施し、庁内連携の

在り方や、相談支援機関同士の連携に関して検討を進めているところです。令和4年度につきましては、各福祉事務所等の協力を受け、個別の対応困難ケースについて、実際に重層的支援会議を試行し、具体的にどのような形で重層的支援体制を構築していくのがよいかという検討を進めてまいります。

【安藤委員】

ありがとうございます。個別のケースというのはどのあたりから出てくるものでしょうか。

【福祉総務課】

福祉事務所の各課から、現在持っているケースで対応が難しく、悩んでいるものをいくつか挙げていただいています。その中から抽出し、検討をしております。

【安藤委員】

分かりました、ありがとうございます。また続きをよろしく願いいたします。

【鈴木会長】

他にはよろしいでしょうか。それでは次の報告事項にきたいと思います。

報告2 その他協議会開催状況

- 障害福祉企画課から資料8について説明。

【小菅委員】

発達障害者支援地域協議会の協議内容に記載されているサポートファイルについて質問がございます。こちらは、すくすくファイルがサポートファイルに変わったということでしょうかと思うのですが、ファイルについては障がい児だけに配っているのか、それとも障がいのないお子さんにも配っているのかが気になるのですが、いかがでしょうか。

【障害福祉企画課】

サポートファイルについては、御質問のとおり、すくすくファイルを改訂してサポートファイルとしているものです。配布先としては、市内の小・中学校に配布したり、施設への配架もしております。直近の正確な数値は手元にありませんが、概ね2,500部程度を市内で配布しております。

【小菅委員】

内容の方も、幼児期から高校生の流れに従ってすごく細かく詳しく分かりやすくなっているので、障がい児だけに配るのではなく、小中学校にも配布しているように統一して、お子さんに関する資料として繋げていけるといった仕組みができたらいいと思ったので、周知をもう少ししていただければと感じました。

【障害福祉企画課】

御案内ありがとうございます。サポートファイルは子どもへのフォローの記録はもちろん、大人になってから記録する部分加わっています。こういったサポートファイルを利用し、その方の記録を継続的に付けていただくことが就職活動や、就職後の支援に生かしていただけるものかと思いますので、成人期における利用についても事務局で検討を進めてまいりますと考えております。

【鈴木会長】

計画の策定にも入ってきますが、理解促進と啓発については障がい福祉では大切になってまいりますので、できるだけ取り組んでいけるといいかと思っております。

報告3 第4次静岡市総合計画に係る意見募集（2回目）について

- 障害福祉企画課から資料9について説明。

(意見なし)

その他のご意見について

(意見なし)

閉会

【鈴木会長】

以上で本日予定されていた議事の審議はすべて終了いたしました。皆様、御協力ありがとうございました。